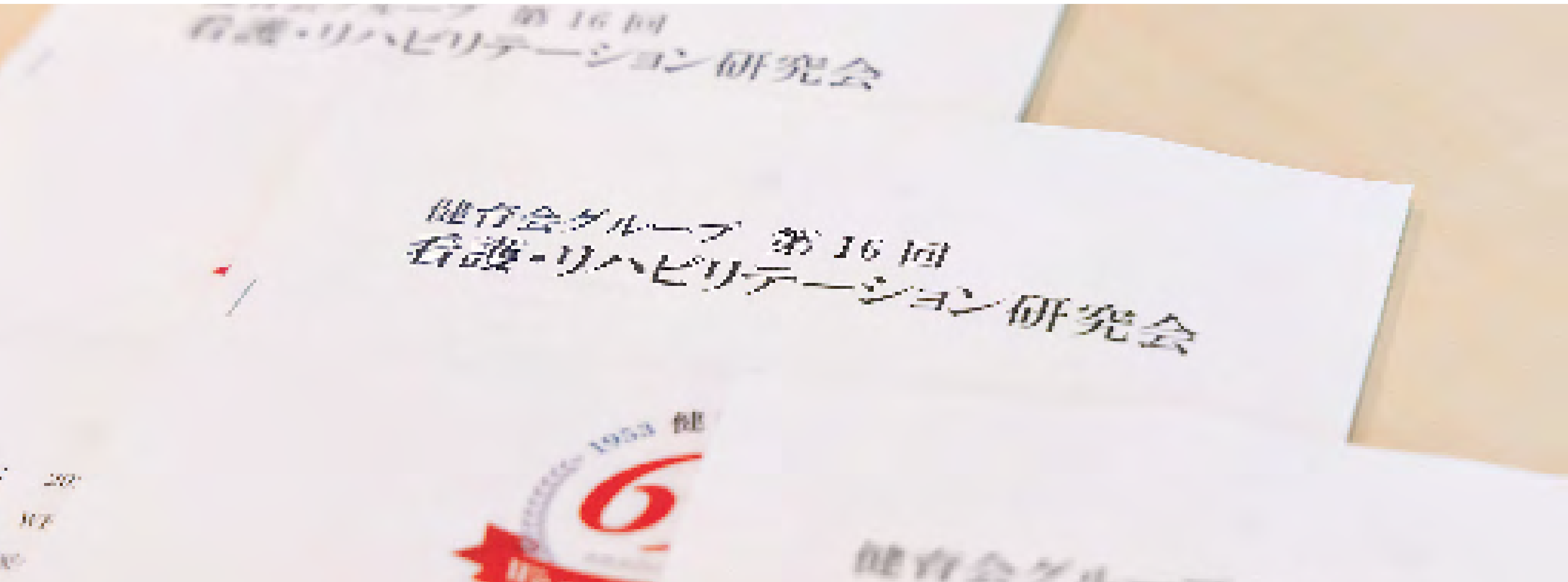


健育会グループ第16回目看護・リハビリテーション研究会

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



7月23日（土）、「健育会グループ第16回目看護・リハビリテーション研究」を開催しました。今年も昨年に引き続き、WEB会議形式での開催となりました。インターネットを通じてグループの各病院・施設から職員が参加し、看護部門・リハビリテーション部門併せて17演題の発表が行われました。

「健育会グループ 看護・リハビリテーション研究会」は、医療従事者にとって必要不可欠な「論理的思考や統計的な視点」を身につけるための研究発表会として発足し、今年で16回目の開催を迎えました。健育会グループの各病院・施設に所属する看護、介護の職員たちが、チーム単位で研究テーマを選定し、1年を通しての研究成果を発表。それらをグループ全体で共有することで、各人が研鑽を積むことができるだけでなく、健育会全体でより質の高い医療を提供していけるようになることを目指しています。



発表が始まる前に、私から参加者のみなさんに向けて次のような挨拶を行いました。

「健育会グループ 看護・リハビリテーション研究会」は、今年で16回目を迎えました。今年も当グループの病院と連携のある大学や看護学校、病院の皆様にもご参加いただいております。ぜひ、さまざまな観点からご意見やご質問をお願いします。

昨年は継続研究が少ないという課題がありましたが、今年は看護部門で9演題中5演題が継続研究となり、さらに研究経過の検証や同じ研究課題に違う切り口で取り組みを行なうなど、よりレベルの高い研究となりました。今年の発表では「継続研究の成果が本当に将来、患者さんに効果を発揮するか」「日常業務の改善につながるか」ということにも注目しながら聞きたいと思います。

テーマの設定については、看護師の能力向上に焦点を当てた発表や、コロナ禍での業務展開、アドバンス・ケア・プランニング等があり、バラエティに富んだ印象です。皆さんが日々の業務で疑問に感じたことを、研究のテーマ設定に反映していることを感じました。



リハビリ部門では、竹川病院と花川病院による、グループでは初めての共同研究発表が行われました。脳卒中による下肢麻痺のリハビリテーション支援を目的としたロボット「ウェルウォーク」についての研究です。最新機器を導入して試し、臨床データを積み上げて、その成果を健育会から外部に発信することは大変意義があると期待しています。

「健育会グループ 看護・リハビリテーション研究会」の回数を重ねることで、より研究としての形が整ってきたと感じています。研究で大切なのは「疑問をもつ」「疑問に対し、熱意を持って取り組む」「悩み抜いて出たテーマの研究方法を熟考する」、そして「論理的な考察をする」ことが重要です。皆さんもその点にも注目しながら発表を聞いて、少しでも論理に疑問を感じたら迷わず質問してください。これが研究の目的です。

本日の演題は、看護部は日本看護研究学会で、リハビリテーション部門は様々な全国学会で発表予定です。内容に磨きがかかるよう、臨場感溢れる研究会になることを期待しています。

発表 《前半》

前半は、看護部門による9演題の研究発表が行われました。前半の座長は、叶谷由佳先生（横浜市立大学医学部看護学科長 老年看護学教授）が務められました。看護師の能力向上や心情ケア、コロナ禍における面会中止に対するサポートなど、多岐にわたる発表となりました。

1

回復期リハビリテーション看護師の 能力向上に必要な支援の検討 ～リハビリテーション看護コンピテンシー評価表を用いて～

石川島記念病院
坂井るみ子



2

回復過程にある入院患者の アドバンス・ケア・プランニングに対する 関心や思いを支える看護実践

石巻健育会病院
武山裕美子



3

直接面会できない家族に対する 看護師の関わりの影響 ～信頼関係の構築～

いわき湯本病院
渡邊千晴



4

回復期リハビリテーション病棟看護職の ワーク・モチベーションに 多職種連携教育が もたらす効果

竹川病院
白髪宇絵



5

看護師が感じる患者の急変兆候と行動特性

西伊豆健育会病院
永原美里



6

**転倒転落アセスメントスコアシートを活用した
離床センサー解除項目の検証**

花川病院
栗橋空良



7

**中途採用看護師の離職防止に対する
組織社会化の影響**

湘南慶育病院
千葉直美



8

**看護・介護職種における終末期カンファレンスと
悲嘆尺度との関連**

熱川温泉病院
本山命



9

内服動作向上のための運動プログラム導入の報告

ねりま健育会病院
塩飽悠介



各発表・質疑応答を終えたところで、座長の叶谷由佳先生から看護部門の発表に対して病院ごとにそれぞれ講評をいただきました。その一部を抜粋して紹介します。



本来3月に研究発表を行うはずがこの時期となり、新しい研究をしながらの発表準備は大変だったと思います。大変お疲れ様でした。演題の半数は継続研究で、普段の看護の中で何が重要か、蓄積がわかる結果になりました。参考にしたいという意見も聞かれ、看護の実際のケアに活かせる有意義な発表が多かったと思います。私からは日本看護研究学会で発表することを踏まえて、いくつかお話させていただきます。

(石川島記念病院)

結果に基づいて考察を行う際に優位差が見られなかった場合は、点数の良し悪しに関わらず「～の可能性はある」など、断定を避けてください。結果だけでなく、他の研究を引用して膨らませる方法も有効です。在宅の関心より、訪問看護の経験が影響するかもしれないとありましたが、私が行っている退院支援の研究でも、実際に退院後の患者さんの様子を観ると看護師の意識が高まると感じています。「訪問看護の経験や退院後の結果を見ることが影響する可能性がある」ということを文献で補足すると、よりいい考察になると思いました。

(石巻健育会病院)

回復期リハビリテーションの研究がありましたが、ここまで着目している研究はこれまでなかったと思います。研究者目線で見ると、私的研究に関しては信頼性と妥当性をどう検証したかが問われます。学会などで発表する際は、その部分をどう担保したかをしっかり入れるようにしましょう。



続いて、健育会グループ副理事長の宮崎雅則先生から、看護部門の研究発表についての総評をいただきました。



今年の研究テーマは、看護師の能力向上や看護業務の改善・向上、アドバンス・ケア・プランニングやコロナ禍での面会、ターミナルや服薬についての演題も登場しました。日常業務における問題意識に対してテーマ選定が行われ、さらに大変多岐にわたっており、全体的にレベルの高い研究だと感じました。

この研究会の目的である、科学的・論理的考察力の習得や継続的取り組みは、非常に大切だと感じています。私はこの研究会にはじめて参加しましたが、質疑応答やディスカッションを含め、看護部門の研究が健育会グループの文化に根付いてきていると強く感じました。今後、益々のご活躍を期待しています。

発表 《後半》

後半は、リハビリテーション部門の研究発表が行われました。後半の座長は、竹川病院リハビリセンター長の山崎康太郎先生が務められました。発表された演題は、ウェルウォークに関する共同研究や患者さんと向き合う中で生じる細やかな課題をテーマにしたものなど、以下の8つとなりました。

10

ウェルウォーク(WW-2000)は従来の理学療法介入よりも片麻痺患者の歩行能力を改善させるか？
～Matched case-control study～

花川病院
丹波裕哉



11

入院患者における主体的目標と主観的QOLの関係

いわき湯本病院
稲田芽依



12

座面の質の違いが立ち上がり動作時の下肢の筋活動に及ぼす影響

熱川温泉病院
土屋花実



13

左半側空間無視における課題フィードバックの違いが病態失認に及ぼす影響

竹川病院
姫田大樹



14

西伊豆町高齢者の現状と介護予防の在り方

西伊豆健育会病院
山口良平



15

当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養状態と入院期間の関連性の検証

石巻健育会病院
遠藤巨樹



16

**事例検討プログラムによる経験学習は新人作業療法士の臨床リズニング自己評価に影響を与えるか
-混合研究法-**

湘南慶育病院
廣瀬卓哉



17

大腿骨近位部骨折術後患者の回復期リハビリテーション病棟における入院時合同評価の結果と退院時歩行能力の関係

ねりま健育会病院
遠藤春菜



各発表・質疑応答を終え、座長の山崎康太郎センター長（竹川病院 リハビリセンター）からリハビリテーション部門全体の講評と各演題についての評価と指摘をいただきました。ここでは全体の講評についてご紹介します。



興味深いテーマが多く、楽しく拝聴させていただきました。総論としては、小さいながら地に足のついた研究が多いという印象を持ちました。

一方で、全国データと比較をしている研究が少なかったと思います。全国的に見た考察や数の多い妥当性の研究という点に視点を向けることで、研究内容はより面白くなることでしょう。今後の展望として、学会などで出しているデータベースを用いた大規模なビックデータの研究もぜひ行ってください。また、いくつかの発表に共通した点で、「はじめに仮説を提示してから、結果で仮説への考察をする」という発表スタイルは、わかりやすくとても良かったと思います。

続いて、宇都宮啓先生（健育会グループ 副理事長）からリハビリテーション部門の総評をいただきました。



山崎先生も指摘されましたが、リハビリテーション部門の発表は非常に明確で、わかりやすいものが多かったです。丁寧に仮説を立てたり、研究手法を冒頭で解説していたりする発表が多く、大変参考になりました。

竹川病院の「左半側空間無視」や湘南慶育病院の「クリニカルリーズニング自己評価」の研究は、難度の高いテーマ設定でしたが、発表者のわかりやすく伝えようという意図を感じることができたので良かったと思います。

この研究会の目的は、学会と違い「素晴らしい研究をした」ことを発表するだけでなく、日常の実感や疑問を研究し、その結果と考察を情報共有することで、健育会グループ全体のレベルアップにつなげていくことだと思います。

またすでにお話にあった通り、今回はじめて花川病院と竹川病院の共同研究が行われました。ウェルウォークだけでなく、左半側空間無視についても取り上げられ、2つの研究が共同研究されました。今後もワンチームとして、こうした試みがさらに広がることを期待しています。

冒頭理事長から、少しでも論理に疑問を感じたら迷わず質問するよう促すお言葉がありました。全体的に見て、論理に疑問を感じた発表はごく一部ありましたが、批判や反対ではなく、皆さんに非常に穏やかな言い方で指摘されていたと思います。褒めるだけでなく、無意識の誤りや論理の飛躍について互いに率直に指摘しあえる環境づくりは、グループとして非常に重要なことだと思います。今後も研究を進めながら、日常の業務を頑張ってください。本日は本当にお疲れ様でした。



看護部門、リハビリテーション部門ともに、継続した研究や幅広い研究テーマの選定だけでなく、研究方法の整え方や考察の仕方など、全体的にレベルアップしていることを実感しました。新型コロナウイルス感染症蔓延の中でも、日々の業務と研究を地道に続けて本日の発表にたどり着いたことは本当に素晴らしいことだと思います。学会での発表に向けて引き続き、頑張ってください。そして、健育会グループの更なる発展につながることを期待しています。